

2022 年第 1 回 IEEE 東京支部理事会 議事録 (案)

日 時：2022 年 3 月 10 日(木) 12:00～14:00

場 所：機械振興会館 6 階 6D-3 会議室

出席者：中野 Chair、小林 Vice Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer

坂東 COC Chair、粕川 FNC Chair、横田 MD Chair、笠 NC Chair、

菅野 TPC Chair、津村 PC Chair、中村 SAC Chair、鈴木 HC Chair、

奥村理事、今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、

滝嶋 Past Secretary、羽瀨 Past Treasurer、

オブザーバ：外田 SIGHT IEEE Tokyo Section Chair 代理、Japan Office 梶川氏

事務局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)
 2. 2021 年決算報告および監査報告 (資料 2)
 3. 2021 年活動計画および 2022 年予算 (資料 3)
 4. 2022 年中間会計報告 (資料 4)
 5. 2022 年総会資料 【審議】 (総会資料)
- 質疑応答(議題 1-5)
6. 委員会活動報告 (資料 6)
 - ・ Chapter Operations Committee (資料 6-1)
 - ・ Fellow Nominations Committee (資料 6-2)
 - ・ Membership Development Committee (資料 6-3)
 - ・ Technical Program Committee (資料 6-4)
- 質疑応答(議題 6 前半)
- ・ Publications Committee (資料 6-5)
 - ・ Student Activities Committee (資料 6-6)
 - ・ History Committee (資料 6-7)
 - ・ Nomination Committee (資料なし)
- 質疑応答 (議題 6 後半)
7. Affinity Group 活動報告 (資料 7)
 - ・ Life Members (資料 7-1)
 - ・ Young Professionals (資料 7-2)
 - ・ Women in Engineering (資料 7-3)
- 質疑応答 (議題 7)
8. その他 (資料 8)

- ・ R10 Meeting 報告 (資料 8-1)
- ・ SIGHT 報告 (資料 8-2)
- ・ [参考] グレード別会員数の推移 (資料 8-3-1)
- ・ [参考] Society 別会員数の推移 (資料 8-3-2)
- ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 8-4)

議事進行に関し、議題 2, 3, 4 については議題 5 の後に実施したが、議事録は当初議題順の通りに記載した。

議事：

0. Chair のご挨拶

Chair より開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認 【審議→承認】 (資料 1)

報告：Secretary

前回理事会（2021 年 12 月開催）の議事録について説明ののち、審議・承認された。

2. 2021 年決算報告および監査報告 (資料 2)

報告：Treasurer

2021 年の決算について、収入は、LMAG において Award 受賞があり賞金収入があった。支出は、広告費はシニアメダル、ピンバッジなどにより計画比で多く、理事会費等がコロナ禍により計画比で少なく、YP、WIE はコロナ禍により活動が厳しく計画比で少なく、LMAG については大きなイベントがあり計画比で多くなっている。Chapter Rebate 支払は計画通り。結果として、当初収支マイナスを見込んでいたがプラスとなり、繰越額が多くなった。

2021 年の監査が無事に終了した。

3. 2022 年活動計画および 2022 年予算 (資料 3)

報告：Secretary（2022 年活動計画）、Treasurer（2022 年予算）

Secretary：2022 年活動計画は 2021 年の第 4 回理事会で報告した内容と同様である。

Treasurer：2022 年の予算計画について JC の LRSC で 1 ドルのレートを決めた。収入については、特記事項として Section Incentive が 2021 年 12 月に入金されたが、2022 年の支出を見込み 2022 年予算に収入として計上した。支出については、頂いた予算計画を反映している。結果として支出が収入を上回る。

4. 2022 年中間会計報告 (資料 4)

報告： Treasurer

2022 年中間会計報告は、2 月末時点で収入がなく支出がいくらか出ている状況で、ほとんどお金が動いていない。

5. 2022 年総会資料【審議→承認】

(資料 5)

報告： Secretary

総会の議題は、今年の活動報告、決算報告、今年の活動計画と予算の 4 つ。その後 Fellow の表彰式の予定。役員構成、今年の活動報告、2022 年の活動計画は、昨年 12 月の第 4 回東京支部理事会で承認を頂いている。このほか今年から Senior Member に昇格した方についても、本来であれば全員お招きしてメダルを Chair からお渡しいただく予定だったが、コロナ禍の状況により代表 1 名に来て頂くことにした。

■ 質疑応答(議題 1-5)

2. 2021 年決算報告および監査報告

(資料 2)

Past Secretary：決算において、事務局費が最終的には変動しているのは何か大きな変化があったのか。

事務局：ドル建てで持っている Concentration Banking の残高について、期中は月末ごとのレートで計算してゆき、年末の時点での残高を 12 月末のレートで再計算し、差額を事務局費に会計計上することになっている。今年は後半でレートが変化し、益が生じた分が事務局費に現れている。

議題 2 について、異議無く承認された。

6. 委員会活動報告

(資料 6)

・ Chapter Operations Committee

(資料 6-1)

報告： COC Chair

前回の理事会から TCS2 件の承認答申を行った。TCS または FCS の承認や申請を行う際の手順をまとめた資料を各 Chapter に配布し、資料の一部分を更に詳細にすべく、Type of Sponsorship の種別や TCS に掛かる経費、協賛の対応等を追記した。内容については JC COC にも合意を取っており、まず最も承認件数が多い東京支部にて報告。支部内での報告の後、JC においても報告予定。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 6-2)

報告： FNC Chair

本日、Fellow 表彰式が開催予定。Section の Fellow 昇格者は合計 11 名、他支部も合わせると 14 名となる。すでに Fellow になり得る方も一定数いると思うので、本日

理事会に出席の方々も是非 Fellow への申請をお願いしたい。自身が FNC Chair となって1年が経過し、今までは個人的な繋がりでの Fellow 申請を依頼していたが、組織的に申請を依頼したく各研究機関にコンタクトパーソンを設け、各研究機関にて Fellow の申請や、そのために必要な Senior Member 申請を含め啓蒙活動をお願いした。機関ごとに申請数も挙げていただき、結果的には5名の申請となっている。各研究機関によって様々な試みが行われていると感じており、感謝したい。

・ Membership Development Committee (資料 6-3)

報告 : MD Chair

今年2月時点でのアクティブメンバーは6,575人。昨年(6,559人)と比較し、ほぼ横ばい状態である。東京支部での2021年 Senior Member 昇格者数は46人となった。今年の活動計画は JC MDC 会議への参加や入会への勧誘、継続のご紹介をメール等で配信していく予定。今年分の在籍年数ピンバッジは3月に送付する。基本的には昨年の取組みを踏襲し、まずは人数が減らないよう維持し、できる限り活動紹介を行って会員数増加を検討していく。

・ Technical Program Committee (資料 6-4)

報告 : TPC Chair

本日3/10、第1回の講演会を予定している。第2回、第3回に関しても4月か5月の開催を目途に現在候補者や講演者の選定を進めている。TPCの主催講演会は年に6回程度予定しており、マイルストーン講演会や LMAG との共催講演会等も検討中。YPとの合同講演会も企画していきたい。

■ 質疑応答(議題 6-1~6-4)

・ Chapter Operations Committee (資料 6-1)

Past Secretary : MOU を締結する・しないの判断で何か基準が変わったのか。

COC Chair : 従来の処理フローは変更しておらず、不明点を補強し、費用を更新した。

・ Fellow Nominations Committee (資料 6-2)

理事 : Fellow 申請者数の目安が5名とのことだが、資料内の数字を数えると6名になる。

FNC Chair : 実際の申請数を数えると5名になる。中にはレクチャーや勧誘を積極的に行っている企業もあるため、インターバルを持って積極的に背中を押すことが申請の増加に繋がるのではないかと感じた。

理事 : 難しい活動への対応を感謝している。

FNC Chair : 今の機関に加え他にこの機関を入れてはどうかと提案があれば是非教えて

いただきたい。

・ Technical Program Committee

(資料 6-4)

Secretary : YP との連携について。テーマが「量子」となっているが具体的にどのようなことを計画しているのか。

TPC Chair : まだ TPC の中で議論をしている段階。大学の先生とコンタクトを取って検討していく。若い人達の関心を得ることができるテーマがあれば是非頂きたい。

Secretary : YP Chair と連携して進めるのはどうか。YP はロボティクスや機械学習について勉強会を開催している。

TPC Chair : 基本的には TPC が主催で講演会テーマを検討する。

・ Publications Committee

(資料 6-5)

報告 : PC Chair

Tokyo Bulletin No.136 と No.137 を発行した。7 月には 2023 年-2024 年の東京支部役員の理事候補者の公告を記載予定。今後の発行予定は過去の実績をもとに発行をしていくが、関係者と個別に調整し、発行時期について検討したうえで発行するので、ニュースがあれば積極的に寄稿いただきたい。JC ホームページの IEEE Fellow 制度ページの更新を実施し、2/1 に更新完了のアナウンスをした。R10 News Letter は LMAG イブニングサロン開催が First Issue に掲載され、LMAG Award 受賞の件は April Issue に掲載された。ホームページの応答速度改善作業は完了しており、作業委託先の速度検証結果および当方の操作体感で大きく改善されたことを確認済。JC と東京支部ともに応答速度改善メンテナンスを実施した旨を 1/11 にアナウンスし、委託先との年間保守契約を更新締結した。

・ Student Activities Committee

(資料 6-6)

報告 : SAC Chair

今年はまだ学生の活動は行われておらず、今後はワークショップ等が予定されている。JC SAC にて東京支部傘下の SB の年間活動計画の取りまとめを行っており、3/10 時点で 6 つの SB から回答があった。この年間活動計画を基に予算配分を行っていく。今年の活動計画は第 19 回 TOWERS の支援やソウルセクションとの学生交流を目的とした Student Paper Contest を開催したい。予算案は各 SB の活動計画書の提出が完了次第、4 月下旬までに精査をして活動計画支援費の割り振りを行う予定。

・ History Committee

(資料 6-7)

報告 : HC Chair

東京支部でマイルストーンの申請をしている 7 件について進捗状況の報告。

関西支部 MDC 主催のマイルストーン講習会（講演会）をオンラインで行った。非常に多くの方が参加した。是非東京支部でも進めたい。

マイルストーンの推薦をした方に Fellow 申請をして頂くため、JC IPC Chair が対応中。

■ 質疑応答（議題 6-5～6-7）

・ Publications Committee

（資料 6-5）

Past Secretary : Tokyo Bulletin の発行計画に各 Committee の活動が記載されているが、EA も入れて欲しい。活発な活動をアピールするため検討いただきたい。

PC Chair : EA の掲載について、検討する。

Past Secretary : 12 月の第 3 回 JC 理事会にて情報サーバーの活用について話をした。東京支部の各 Committee でアカウントを所持しているため、もし活用できていない Committee があれば上手く使うようアドバイスをしてはどうか。必ずしも普段の活動で Garoon を使う必要は無いが、公式な文書は Garoon で管理し、役員交代の際に過去の情報を共有するアーカイブ化を図るためにも JC では Garoon を活用して欲しい旨の話をした。この件に関して PubCom から情報発信してはどうか。

情報の発信や管理の体制作りが話題になっているため、東京支部では PubCom を中心とした様々な方法があると思う。もし動きがあれば、共有して欲しい。

PC Chair : Garoon は活用されていると思っていた。

Past Secretary : まずは状況確認となるが、少なくとも JC では活用が十分どころも不十分どころもある。無理に使う必要はないが、後任への情報共有としては上手く活用した方が良い。東京支部で進んでいるのであれば、何もしなくて良いと思う。

PC Chair : 情報の発信や管理の体制作りについて、話が進めば情報交換する。

・ Student Activities Committee

（資料 6-6）

Past Secretary : 前回の JC 理事会で SB について情報共有があり、人数の少ない SB への支援をしていく旨の説明があった。人数が少ない SB への支援は東京支部側でもサポートを行うのか、状況を教えて欲しい。

SAC Chair : 人数の少ない SB へは連絡を取り、学生から状況を聞いているが返信が無いところもある。その場合はカウンセラーの先生にも連絡を取っているが、それでも返信が無い SB もあり悩んでいる状況。

Past Secretary : なるべく理事会や他の IEEE イベントでコンタクトできるようになれば良い。

SAC Chair : リーダーシップトレーニングワークショップが開催予定。東京支部で Slack を活用し、SB 間で相互に連絡を取り合っている。状況をアナウンスできるよう努めたい。

Secretary : 東京支部には 13 の SB があり、現時点で 6 ブランチから活動計画書が提出されている状況だが、例年は最終的に回答が出そろうのか。

SAC Chair : 未提出でも特に問題はないが、昨年も 6 ブランチのみの回答であった。

Slack に次期 Chair を招待して頂くよう Past Chair に依頼しているため、連絡が取れる可能性もある。活動計画書については 3 月中に提出して頂くよう JC SAC と協力して進めていきたい。

・ History Committee (資料 6-7)

Secretary : ぜひマイルストーン申請のサポートをお願いしたい。

HC Chair : マイルストーンの講習会 (講演会) は東京支部でも開催したい。具体的な内容は MDC と相談して決めていきたい。

7. Affinity Group 活動報告 (資料 7)

・ Life Members (資料 7-1)

報告 : LMAG Chair

新 Life Member(今年は 81 名)の昇格祝いメッセージを送った。昨年末同様、東京支部 Life Member に Senior Member の申請を依頼し、今年は 1 名の方の申請があり対応中だが、リファレンスを選ぶのが非常に難しいと意見があった。見つからない場合は LMAG 役員で対応予定。

LMAG Achievement Award のセレモニーを開催し、非常に盛会だった。News Letter は昨年同様、今年も 3 回発行予定。役員の任期が今年一杯のため今秋に役員選挙を行う。

会員サービスは LMAG 主催の講演会等を行う予定。マイルストーンの見学会を予定しているが、コロナウイルスの蔓延状況によって開催を判断することとなる。イブニングサロンの話題提供は JC LM Coordinator に依頼している。

・ Young Professionals (資料 7-2)

報告 : YP Chair

1/30 にキックオフミーティングを開催し、メンバーでどのような活動を行うか、目標を決めて議論をした。昨年から開催している YP ラジオは YP メンバーの分野や活動を紹介するイベント。オンライン勉強会は機械学習やロボティクスをテーマにそれぞれ別の日に開催をした。今年の活動計画はアイデアコンテストを去年と同様開催したく、国際アイデアコンテスト等に日本人の学生にも参加をして欲しい。STEP についても、企業の見学会を今年も同様行いたい。テクニカルワークショップは開催形式を検討している。論文の書き方のワークショップも開催したい。

EA のイベントは Educational Webinar シリーズを昨年 12 月から開催している。「5G and Beyond: The Insider Story」と題して標準化のエキスパートであるスピーカー 2 名

がアメリカから参加した。Webinar は英語で開催され、参加者は 50 名程となった。参加者からのコメントもポジティブなもので、引き続き英語の Webinar の開催を希望する声があった。

第 2 回の Webinar は IEEE Past President をお招きし、今週末に開催を予定している。EA の今年の活動は 2 つの社会問題に集中したい。1 点目は STEM の分野で女性の学生が少なく、ロールモデルがないこと。2 点目は大学入学前、キャリアが不明な状態で自分の専門を選択している方々がいること。Educational Webinar にて研究開発分野で奮闘している方にスピーカーとして講演頂きたい。また、「Find your major ワークショップ」を開催し、様々な大学とコラボレーションして様々な分野を学生に向けて紹介したい。

・ Women in Engineering

(資料 7-3)

報告 : WIE Chair

1 月に役員会を開催し、新しくやりたい事などを話し合った。WIE から Senior Member を増やしたいと話があり、進めていきたい。イベントについて、WIE が共催する形で参加 (EA のイベント等) を予定している。昨日コーヒブレークが開催され、10 名が参加した。参加者のうち 1 名が博士を目指している学部 4 年生で、コロナウイルスの影響で周りとの接点を持たず、繋がりをもちたいため参加したとのこと。我々としては大変喜ばしく、博士を目指す背中を押していくと話をした。そのほか、自分の研究の話で盛り上がるなど、大変有意義な会であった。今後の予定は役員会をしながら具体化して進めていきたい。

■ 質疑応答(議題 7)

・ Life Members

(資料 7-1)

Secretary: Award Ceremony は非常にエモーショナルだった。当初欠席予定だった R10 の方もスケジュールを調整して参加をしていた。世界に 100 以上ある LMAG で唯一選ばれた瞬間に立ち会えたこと、非常に光栄であった。

・ Young Professionals

(資料 7-2)

Vice Chair : EA の Webinar は非常に面白い取り組みだと思う。参加者の構成を教えてください。

YP Chair : Webinar はプロフェッサーや学生など、様々な年齢の方々が参加した。

Vice Chair : Past President のキャリアをテーマにしている 2 回目の Webinar も非常に面白そうである。

YP Chair : Past President は初めて日本のオーディエンスに向けて講演をすることとなる。自身のキャリアの進め方について、色々なことを話してくださると思う。

Secretary : Past President は女性の方だった。ロールモデルがない問題については

WIE にも声を掛け、WIE のコーヒブレイクに参加した学生にも併せて参加していただくが良い。

WIE Chair : 周知する。

・ Women in Engineering (資料 7-3)

HC Chair : 昨日のコーヒブレイクのイベントの参加者に男性はいたのか。

WIE Chair : 男性の参加者はいなかった。参加は歓迎なので是非申し込んで欲しい。

Secretary : 今年は IEEE WIE 25 周年で記念すべき年。引き続き WIE の会員を増やしていただきたい。また、本日はシニアメダルの授与式を行う予定。受賞者 46 名のうち女性 1 名に現地にお越しいただき、代表してメダルを受け取っていただく。

8. その他

・ R10 Meeting 報告 (資料 8-1)

報告 : Secretary

2/26-27 に、Zoom によるハイブリッドで開催。初日は IEEE 本部から President、Executive Director、MGAVC、MGA Managing Director の報告、R10 の Membership Activities Committee、Technical Activities Committee、Professional Activities Committee の取り組みの説明、昨年の収支、内部の監査結果が示された。2 日目は、R10 Nomination and Advisory Committee、MGA Training Committee の活動報告、Flagship Conference である TENCON、TENSYP、HTC の 2021 の実績と 2022、2023 年の予定が説明され、最後に Award Winners の報告があった。

今年では会員数が伸びており、R10 全体で 13% 程度。その中で Undergraduate Student が 33.8% の増。WIE は 40 数% の増が示されている。人数が多いので R10 を分割してはという話が進んでおり、North Asia と South Asia and Pacific への分割案が検討されている。実現するとしても 6 年から 7 年先になると思われる。IEEE 全体の会員としては、全体で 3.5% 増。Undergraduate Student が 23.4% 増。

決算については、R10 の収支は支出が 32% 減で繰り越しが増えている。Past President から R10 の 2 分割に備え費用を留保しておいた方がよいのではないかとの指摘があった。メンバーのバリューを損なわないことが前提。R10 Nomination and Advisory Committee の方から次の Director の Elect のスケジュールが示された。候補者が 2 名。1 名が韓国の方、もう 1 名が JC Chair である。

R10 の Award については、R10 の Best Membership Retention Section Award に関西支部、福岡支部、WIE に関して仙台支部、個人としては、Outstanding Volunteer Award に JC HC Chair がそれぞれ選出された。ぜひ Award への応募を続けて頂きたい。ノミネーションは 7/30 締切となっている。

日本は会員数が R10 で 5 位、Higher レベルで 4 位、学生が少なく 10 位の状況。

WIE のメンバーも R10 では順位が低く今年 25 周年でもあり頑張ってもらいたい。
President が SNS、Facebook、Instagram、Twitter、LinkedIn を開設した。JC として今後何らかの形で SNS の利用を進めることも考えたい。

■ 質疑応答（議題 8）

Chair : President が、IEEE は IEEE だけで、Institute of Electrical and Electronics Engineers という名称はもうやめたと言っていた。Electrical Engineering と Electronics Engineering の代表ではなく物理ベースのエンジニアリングを全部取り込むことだと理解している。機械工学、ロボットなども象徴的な分野であり、そのような分野を国際的にエンジニアのホームにすると仰っていて、記憶に残った。日本国内においても電気という範囲でなくエンジニアリングとして非常に広範囲な分野を取り込むことをしていくべき。日本は学生数で 10 位とのこと。日本の大学では電気の「電」の字を冠した学科は減り、様々な新しいキーワードを擁した学科になっている。どこの大学の工学部も半分は IEEE の体系の中に入っていると思うので、電気工学科の Undergraduate に声をかけるだけでなく、機械や化学も含めて行ってもいいと考えている。そのスタンスで様々な分野の若い人を公開的な学会活動に参加してもらえるように背中を押すことが重要ではないか。

Past Secretary : R10 の分割案について、2019 年から話があって日本からも案を出した。当時の 4 役では日本として ASEAN と一緒に地域にいた方がよいのではないかと提案をした。現在の情報があれば教えて頂きたい。

Vice Chair : 現在の案では ASEAN とは離れていて、North と言うよりもむしろ East(日本、韓国、中国)となっている。

Past Secretary : この線で今後の調整が進むのか。

Secretary : これは決定ではなく、検討中である、決定されたとしても 6-7 年先であるという説明だった。

・ SIGHT 報告

(資料 8-2)

報告 : IEEE SIGHT Tokyo Section Chair 代理

2021 年は第 1 回ミーティングを開催した。2022 年の活動について、SIGHT という難しいテーマ、Humanitarian という経験が少ないテーマで海外の状況を知りたいと考えている。マンガプロジェクトについて SIGHT としても繋がって行って若手に発信していくのが必要と考えている。

ホームページを作り始めた。未公開だが、作ってもらいつつレビューしてゆく流れになりそう。4 月から具体的な動きを決めながら進めていきたい。IEEE の学術的なところよりも、どう発信するかをメンバー含めて議論し悩んでいるところ。

Secretary: マンガプロジェクトは JC SAC を中心に進めているが、学生は卒業後は YP となるので、マンガプロジェクトをうまく使って会の活性化につなげて頂きたい。

- ・ [参考] グレード別会員数の推移 (資料 8-3-1)
- ・ [参考] Society 別の会員数の推移 (資料 8-3-2)
- ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧

報告 : Secretary

グレード別会員数の推移、Society 別会員数の推移、R10 からのメール連絡一覧について報告。

以上